

## ○調査目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【結果について】

### 《概要》

本校では、国語、算数、理科のどの教科も全国の平均正答率を2ポイントから6ポイント上回る結果となりました。国語では、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」についての正答率が全国平均を大きく上回っていましたが、「書くこと」の区分では正答率が全国平均を若干下回っており、課題が見られました。算数では「数と計算」「図形」の区分の正答率は全国平均を大きく上回っていましたが、「変化と関係」「データの活用」の区分の正答率は全国平均を下回り、課題が見られました。理科では、「エネルギー」「生命」「地球」のそれぞれを柱とする領域において全国平均を上回っていましたが、「粒子」を柱とする領域についての正答率は若干下回っており、課題が見られました。

質問紙調査では、「どのくらいの時間ゲームをしますか。」という質問や「学校の授業時間以外に勉強をしますか。」という質問に対して全国平均よりも低くなっていました。「普段、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか。」「新聞を読んでいますか。」という質問に対しては、肯定的な回答の割合が高くなりました。

○「将来の夢や目標を持っていますか。」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という質問に対して肯定的な回答をする児童が多く、「自己有用感」や「自己肯定感」が高いと考えられます。自己有用感や自己肯定感が高いことによって、友だちに優しく接することができたり、集団に対する責任感、きまりを守って行動しようとする自覚を持つことができたりすると考えられます。

△学校の授業時間以外に勉強することや、計画的に家庭学習に取り組むことに弱みがありますので、今後は、復習や予習など宿題以外の家庭学習の仕方を指導していくことが必要になると考えられます。

## 【指導の充実に向けて】

- ◇国語では漢字の書き方をしっかり覚えるとともに、同音異義語について正しく理解し、意味に応じた正しい漢字を書くことができるように指導していきます。
- ◇国語だけではなく、全ての教科で自分の思いや考えをまとめて書く活動を学習に取り入れ、自分の考えを整理し、論理的にまとめて書く力を伸ばすことに努めます。
- ◇算数では「変化と関係」「データの活用」の力を育てるため、計算練習の反復や必要なデータを自分で取捨選択し、活用できるようにするなど、基礎的な問題から正確に解くことに取り組みます。また、問題を正しく読み解く力を育てるため、文書の中で必要な情報は何かを絶えず意識しながら読む解くことに取り組みます。
- ◇授業の中に「話し合う活動」を取り入れ、互いの思いや考えを聴き合う活動をしたり、効果的にICT機器を活用したりして、学びの質を深めていきます。
- ◇体験活動やたてわり活動を充実させ、一人ひとりが達成感や存在感を感じられる学校・学級づくりに努め、児童の自己肯定感を高めます。
- ◇「朝読書」の時間の内容を発展させて、読書に親しむ習慣を身につけさせるとともに読み解く力の育成に努めます。